



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース 24号



新年ご挨拶

平林 義正

新年あけましておめでとうございませう。昨年(2011年)は東日本大震災により「海苔つけ体験学習」の海苔を心配していたところ、宮城県産が十一月の学習に使用でき、産地の復興がうかがわれ共に喜ばしいことでありました。各種行事の中で夏休み子ども向け講座、箸編み細編みを応用した調べ学習の参考になる講座は大変好評を頂きました。一月には大森海苔漁業者の元組合員の名板が作業室にかげられ、本場大森海苔を培って来た人々を後世に伝えることが出来喜びに堪えません。

海苔のふるさと館は五年目を迎えます。開館以来来館者は三十万人を迎え平素館内は賑わっております。常に心温まる接待や業務に携わっていただける館職員に感謝致します。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 理事長)



大森海苔漁業者の名板



元船大工の小島延喜氏寄贈の荷足船



夏の子ども向け体験学習会



新春のごあいさつ

当館の活動にご協力いただいている方々から、新年のごあいさつをいただきました。



海苔業が終わって48年が過ぎ、まさかふるはまで海苔とりが出来るとは思っていなかった。昔ながらのやり方で親子の皆さんに指導し、本場大森海苔生産業の昔話をしながら、今年も良い海苔が取れ1人でも多くの方に体験してもらいたいと思う。(海苔のふるさと館協力者 中村博)

平成23年度のはまどの会の特別研修会が8回に渡って開催されました。地域の海苔の歴史と海苔の1年と1日の作業で実践を教えたいただき、また研修を東京海洋大学の学生さんと共に勉強させていただきました。そして、修了証もいただきました。来年は展示ガイドを目指していっそうがんばりたいと思います。

(はまどの会 三城友子)



去年3回目のお月見コンサート、創作詩に詩吟とチェロのセッション、会員独自の企画と演出で、次に弦楽四重奏が心に染みいるような演奏。皆様の好評を博しました。海と海苔とふるさと(浜辺)をテーマに、今年もまた斬新な企画で!!お月様、今年も中秋のその日、顔を見せてくださいいね!(NPO会員 岡崎博)

東日本大震災と海苔生産

東日本大震災で被害を受けられた方々にはお見舞いを申し上げますと共に、復興へ向けた新たな1年となりますようお祈り申し上げます。

被害の大きかった宮城県は、海苔生産全国第5位(平成22年度)です。甚大な被害を受けたものの、約3/1の生産者が協業によって生産を再開し、復興へ向けた明るいニュースとなりました。

当館の海苔つけ体験でも、宮城県石巻産の生海苔を使用しています。現在、宮城県を始め、いずれの生産地の海苔からも放射性物質の暫定基準値を超える数値は検出されていません。安全に対する情報もお伝えしておりますので、ぜひ、体験にご参加いただきたいと思います。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」24号

平成24年1月1日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347